

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0492800024
法人名	社会福祉法人 みやぎ会
事業所名	グループホーム にこトピア加美
所在地 (電話番号)	宮城県加美郡加美町字町裏八番70-1 (電話) 0229-64-1023
評価機関名	一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡
訪問調査日	平成20年9月22日

【情報提供票より】20年8月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年8月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 15人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	66歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立 加美病院 中嶋歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、平成18年8月に開設された2ユニットのグループホームで、周囲は田園地帯の商店街につづく静かな住宅地で学校や文化施設も近くにある。同じ敷地内には旧家を利用したデイサービスが併設され利用者とホーム入居者の交流も行われている。運営法人は社会福祉法人みやぎ会であるが、シルバーグループの一員で「心からの暖かいおもてなし」を基本に、さらに地域への貢献や融合を目指しホーム独自の3つの理念をかかげ全職員が一体となって理念を共有し、質の高いケアに取り組んでいる。ホームは入居者・家族の満足度・信頼も極めてあつく、地域・行政とも良い関係が保たれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は①地域とのつきあい②同業者との交流を通じた向上③重度化や終末期に向けた方針の共有④災害対策であるが①②は改善に進展しているが③④は今後の課題としてさらに取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で各項目の記入に当たったが、そこで経験年数やレベルの違いが出て項目によっては理解が難しい所もあり、管理者はその内容の説明と理解に時間がかかった。今までの評価の記入方法を検討する予定である。なお、評価で出された改善課題は改善シートに移し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はホーム内の入居者の様子や行事等の状況、さらに外部評価の報告や職員の他施設の見学報告等の内容で双方向的な討議が進められている。ただ議事録の取り方や構成メンバーの不足もあり、元町職員だった人を相談員に入れ、現在他ホームも参考にして運営推進会議の充実をはかることを検討している。
重点項目③	家族の来訪も多く入居者一人ひとりのカラー写真入りお便りも2ヶ月に1回は送られ、家族との話し合いもよくされている。その中でホームで出来る事、家族がなすべき事についても話しているが、入居が長くなるとホームにまかせっきりと言う所も出てきているので、ホームからは色々の連絡を入れるようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との連携は地域の人達が入居者の動きや見守りの協力が得られるまでに進んでいる。小学生や町内女性部の人達等ボランティア活動も多いし、又ホームとしてもミニデイや認知症の学習会を行っている。今後この連携を防災の面にも大きく広げていただきたい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	年度初めに全職員が各自の短長期目標を出し、その際合わせてホームの理念も検討されていて、現在は①スタッフの創意工夫・・・②は安全・安心・健康・・・③に地域・家族との結びつき・・・と地域との関係強化がうたわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝のミーティング時に唱和され共有に努力している。気付きノートの活用や記入に理念の創意工夫が活かされ、安全・安心にはセンサーライトを行動把握が必要な入居者の夜間行動の把握に役立てている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々とは笑顔で挨拶を交わし、地域の一員として回覧板もまわしているし、ボランティアの人も音楽療法、小学校の虎舞い、近隣の方々の合唱やマジックショーと多く、地域の行事にも積極的に参加して地域にとけ込む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価を説明し、全員に各項目を記入してもらい、それを管理者・リーダー・サブリーダーでまとめて全員に報告しているが経験年数により出来ない項目もあるので次回はさらに検討したい。なお、自己評価で出た課題は改善シートを作り、検討して改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告や系列施設の見学、ホーム内の入居者の状況など双方向的な会議で話し合いが行われている。さらに防災・福祉の面等から構成メンバーの充実についても現在色々話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの依頼で認知症の人の家族学習会をしているし、昨年はミニデイサービスも行っている。入居者の中に行政とのかかわりが必要な人が居るので市町村とのつながりは常に保たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多く暮らしぶりや状況はよく話し合われているし、来訪のむずかしい家族のことも考え2ヶ月に1回は写真入りの各入居者ごとのお便りも作られ、金銭のチェックも毎月行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情・相談の窓口があることを説明し、管理者を中心にスタッフ全員で話しやすい雰囲気作りを心がけているし、ご意見箱も設置されている。しかし、区長さんに第三者委員を依頼されているのに重要事項説明書に明記されていないので市町村の窓口の電話番号と共に明記してもらいたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係作りを重視し職員の配置換えは行っていない。又離職者もゼロである。さらに各ユニットの交流は入居者も含めよく行われホーム全体が顔馴染みの関係になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シルバーグループ内の研修トレーナー制度(1回4週間)も活用し、日常的に学ぶことを推進しレベルや経験年数に応じた各研修を受けている。又資格を取るためのバックアップもされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム(シルバーグループも含む)数ヶ所と随時交換研修を行なっているし、NPO県グループホーム協議会にも加入し、スタッフの交換研修や勉強会に参加してケアの質の向上をめざしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>く</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学等で何度か入居者・家族と会い、馴染みながら利用してもらうようにしているが、時にすぐ入居と言う人も居るので、その時は出来るだけ馴染みの人達にホームに来てもらう入居者が安心して生活出来るよう配慮している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入浴や散歩の時普段話にくいことや悩みを聞き、日常生活で得意分野で力を発揮してもらうように働きかけ、入居者からは、昔の風習や料理を教えてもらう事も多く、お互い家族の一員として支えあっている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常に一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めていて、意思疎通が困難な入居者には家族や周りの人達から情報を得るように心掛け、本人にとってどのような暮らしが一番いいのか検討し支援している。</p>		
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者がその人らしく地域で長く暮らせるよう日頃の生活から、本人・家族の思い要望を聞きさらに関係者の意見も含めて入居者本意の介護計画書をスタッフ全員で話し合っ作っている。出来た介護計画書は家族に渡している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は介護計画が見直しされていて、本人・家族の意向も毎月確認されている。又入居者の状況や状態の変化等に応じ必要な見直しも行われている。見直した介護計画は家族の同意も得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の状況に応じ通院・送迎等必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が受診できるよう支援しているが、遠距離の場合は本人・家族と話し合い協力医療機関での受診にしている。かかりつけ医との関係は良好で、受診や通院についても家族とよく話し合っ対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や家族と連携をとり終末期の入居者も出来る限りホームで過ごしてもらうよう努力しているが、本人・家族・職員との連携はほぼ整っているが、医療機関との関係でまだ看取りまではふみだせないでいる。「重度や看取の指針」もあり体制は整ってきつつある。	○	医療機関との関係で努力されているがこれからの進展をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃より入居者の尊敬・尊厳に配慮されていて、目立たない対応や言葉かけ、居室の出入りにも心くばりがされている。個人情報保護の取り扱いについても取り決めがあり、個人記録やメモの放置もない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮し入居者一人ひとりの状態や思いで、その日が本人ペースで暮らせるよう柔軟に支援されている。職員の都合が優先するようなことはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は旬の新鮮なものを取り入れ入居者の好みや苦手なものを踏まえたメニューもあり、食事の準備や後片付けもみんなでいき、和やかな雰囲気です。サポートもさりげなく行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞き毎日入浴は出来るよう支援しているが、入浴を拒む人もいますので、職員の工夫や対応で入浴してもらおうようにしている。なお、現在は午前・午後と昼間の入浴時間帯なので夜間の入浴も検討されているとのことに期待したい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに得意とするところで力を発揮してもらおう働きかけ、掃除・草取り・雑巾縫い・料理・片付け・カラオケ等で役割や楽しみごとが増え、毎日が張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。又ドライブも入居者と相談して楽しみながら行き先を決めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分・要望に合わせて、買い物・ドライブ・散歩等で戸外に出られるよう支援している。日課としてホーム周辺を日に2回散歩する人や畑仕事を楽しまにしている人もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が日中鍵をかけることの弊害を理解しており、外出しそうな様子の人には出来るだけ介添えしている。又近所の人達もよくホームを理解されており常に入居者の行動の連絡や見守りの協力もされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回入居者の避難訓練や消防署立会いの防火訓練を行い、近隣の方の参加も得ているが、夜間想定避難訓練はまだ行われていない。	○	次回の夜間想定訓練を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重チェックは毎月行われ、必要な人の水分摂取量や食事のカロリーチェック等が行われているが、専門的な観点からの栄養士や保健師の指導や助言が無いので、法人や行政を活用して、1～3ヶ月に1回指導や助言を受けるようにしていきたい。	○	地域包括支援センターの保健師さん等の活用も考えてみていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
あ					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の生け花に季節感を持たせ、全体の照明・音や声の大きさ、温湿度や換気も適切に管理されている。人間関係を考慮したテーブル配置やソファが置かれ、日常的な時計や暦も見やすく居心地よく過ごせる共用空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく居室で過ごせるよう色々な写真を飾ったり、仏壇を持ってこられたりと各居室サポートされている。又家族には馴染みのものを持ってきてもらうよう働きかけも行っている。		